



まつもと けいた  
松本 圭太

生年月 1988年9月兵庫県生まれ  
最終学歴 京都大学大学院工学研究科  
建築学専攻  
業務経歴 2014年鹿島建設(株)入社  
●担当した主なプロジェクト  
2014年 (仮称)三井住友銀行本店東  
館計画工事事務所  
2015年 (仮称)紀尾井町計画オフィ  
ス・ホテル棟新築工事事務所  
2016年 (仮称)神奈川西部郵便施  
設新築工事事務所  
2017年 MM20街区ホテル施設新築工  
事事務所  
2020年 TDS大規模開発(第1区)  
アトラクション新築工事事務所  
2022年 神戸銀行協会解体工事事務所  
2023年 神戸旧居留地91番地新築工事  
事務所

■青年技術者のことば

姫路城のようにその地域のランド  
マークになり長く愛される建物を  
建設したいという思いで入社し  
て今年で10年目。これまで東京・  
横浜・神戸で6現場を経験し、現  
在、7現場目を担当している。こ  
れまで施工管理業務を遂行するに  
あたって、何が「正しい」のかを  
常に考えることで、現場内にある  
些細な問題をそのまま見逃さず工  
事を進めようと極力努めてきた。  
安全、効率的かつ現実に即した  
「正しい」業務を追求するために、  
一人の技術者としてさらなる知識  
を身に付け、リーダーシップをと  
って現場運営ができるよう日々  
精進していきたい。

■すいせん者

矢野和孝  
鹿島建設(株) 関西支店 建築部  
管理グループ グループ長

～正しさの追求～ 隣地建物と近接した建物の解体

■低層棟2F 解体工事

解体建物が敷地境界間際まで建設され  
ていたことから、作業は困難を極め  
た。特に低層棟西側躯体は隣地建物の  
管理用通路と接しており、通路との間  
にはフェンス等の仕切りはなく、壁が  
フェンスの役割をしていた。管理用通  
路は建物の避難経路を兼ねているため

1,500mm幅を確保する必要があり、足  
場を越境して常設できないことが協議  
の中で判明した。そこで、足場を浮か  
せることで避難経路を確保しつつ、解  
体養生足場を設置する案を考え、低層  
棟柱からBKブラケットで跳ね出し、そ  
の上に枠組足場を設置する計画を提案  
した。隣地1に無事承諾をいただき、  
解体養生足場を組むことができた。ま

た、この足場は低層棟2F解体後に解体  
する必要があったため、2F解体後に  
1F壁を高層棟解体が完了するまで養生  
壁として残す計画とした。結果、高層  
棟解体中にコンクリートガラを飛散さ  
せることなく、無事完了することがで  
きた。



■低層棟1Fおよび基礎解体工事

下図は低層棟1F および基礎の解体計  
画をワンシートにまとめたものであ  
る。特異点の施工計画においては、ワ  
ンシートにまとめて検討会を行うよう  
にしている。検討会でのコメントをさ  
らに書き込むことで内容をブラッシュ  
アップでき、より安全な施工計画がで  
きる。  
1F壁解体計画では、柱下部を圧砕した  
後に重機2台で壁を倒す計画を考えて

いた。さらに下部壁を事前にはつり解  
体することで、さらに安全に壁を倒せ  
ると考えていた。しかし、検討会にお  
いて別の視点から、単管養生が躯体に  
押さ別て隣地底に干渉するのではとい  
う意見が出た。そこで近隣協議の上、  
隣地建物の腰壁から引っ張りをいれる  
ことで、単管を補強することができ、  
庇を損傷することなく解体することが  
できた。  
基礎解体計画では、隣地管理通路より  
1,200mm深い基礎および基礎梁が敷地  
境界から150mm離れたところに建設さ

れていたため、近隣協議では隣地通路  
に損傷がある可能性を事前に伝えた上  
で、損傷した場合の補修方法まで承諾  
を得ていた。また、事前に隣地建物の  
設計図を確認させていただき、通路下  
部に給水・電気等のインフラがあるこ  
とがわかっていたので、万が一に備え  
て管理事務室に待機していただいた。  
実際には、多少の損傷があったもの  
の、協議の想定内であったため特段問  
題になることもなく、補修し無事完了  
することができた。

